

平成 29 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（出題のねらい，問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

＜検索用キーワード＞

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析 コミュニケーション能力

研 究 会 委 員

愛知県立名古屋西高等学校教諭	遠 藤 啓 史
愛知県立鳴海高等学校教諭	梅 村 守
愛知県立瀬戸北総合高等学校教諭	山 本 竜 也
愛知県立一宮北高等学校教諭	得 永 優 子
愛知県立横須賀高等学校教諭	大 野 敦 子
愛知県立豊田西高等学校教諭	石 川 和 代
愛知県立幸田高等学校教諭	溝 上 真 俊
愛知県立安城南高等学校教諭	下 條 貴 司
愛知県総合教育センター研究指導主事	広 瀬 八 重 子（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理	56
3 調査結果の概要	57
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	59

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和 29 年度以来継続して実施し、平成 29 年度で 64 回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- (1) 中学校と高等学校の連携資料
 - (2) 高等学校第 1 学年における指導上の参考資料

2 調査の実施及び処理

調査は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題及び報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターの教育研究調査事業「高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）」において行った。

(1) 実施時期

平成 29 年 3 月下旬から 4 月上旬までの間に、新入学生徒英語学力調査の参加校において実施した。

(2) 実施状況

課程	年度	平成 29 年度		平成 28 年度		平成 27 年度		平成 26 年度	
	学科数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
全 日 制	普 通 科	103	27,576	104	27,744	104	28,108	105	28,214
	総合学科	6	1,475	6	1,477	6	1,478	5	1,237
	商業科系	7	789	7	786	7	783	7	783
	家庭科系	14	713	12	715	12	695	14	745
	英語科系	4	161	4	158	4	167	4	172
	他の学科	11	696	13	710	13	791	12	825
定時制		0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		145	31,410	146	31,590	146	32,022	147	31,976

（注 1）表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

（注 2）「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

（注 3）「英語科系」は、国際教養科及び英語留学コースである。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を、学習内容ごとに調査するものである。問題作成に当たっては、次の点に留意した。

ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。

イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。

ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 統計上の調査事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

ア 平均点 イ 得点分布表 ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の 10%を抽出）

エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

〔表 1〕は、調査対象 31,410 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差）

[表 1]

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体	3,151	4,996	4,638	4,571	4,548	4,052	3,001	1,840	561	52	31,410	61.9
%	10.0	15.9	14.8	14.6	14.5	12.9	9.5	5.8	1.8	0.2	標準偏差	21.4
普通科	3,073	4,829	4,364	4,105	3,852	3,204	2,257	1,396	448	48	27,576	63.8
%	11.1	17.5	15.8	14.9	14.0	11.6	8.2	5.1	1.6	0.2	標準偏差	21.2
総合学科	7	54	116	208	301	355	279	135	20	0	1,475	49.3
%	0.5	3.7	7.9	14.1	20.4	24.0	18.9	9.1	1.4	0.0	標準偏差	16.2
商業科系	3	26	46	101	153	207	152	77	24	0	789	47.5
%	0.4	3.3	5.8	12.8	19.4	26.2	19.3	9.8	3.0	0.0	標準偏差	16.2
家庭科系	3	12	38	73	128	154	173	102	30	0	713	44.3
%	0.4	1.7	5.3	10.2	18.0	21.6	24.3	14.3	4.2	0.0	標準偏差	16.2
英語科系	58	41	25	19	10	8	0	0	0	0	161	80.3
%	36.0	25.5	15.5	11.8	6.2	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	標準偏差	14.7
他の学科	7	34	49	65	104	124	140	130	39	4	696	44.8
%	1.0	4.9	7.0	9.3	15.0	17.8	20.1	18.7	5.6	0.6	標準偏差	19.3

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成 29 年度学力調査結果に見られる新入生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音・文強勢問題 正答率 64.5% 【2】語彙問題 正答率 64.5%）

ア 短い英文中の語の発音で、thousand, thirteen の下線部の発音 [θ] はよくできているが、[æ] や [ʌ] といった母音の発音の区別ができていない。また、発話や応答において、強勢を置いて伝えるべき情報のうち疑問詞の内容はおおむねよく意識できている。

イ 【2】語彙問題は、選択式問題の正答率が高いのに対して、記述式問題において、文脈や対話の内容に応じて、適切な語彙（problem, different など）を用いることができていない。つづりの誤りよりも、別の語を解答する誤答や無答が多いという傾向が見られた。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 74.3% 【4】文法・表現問題 正答率 70.1%）

ア 【3】文法・語法問題は、全大問の中で最も正答率が高く、特に疑問詞 which や現在分詞の後置修飾の用法はよく定着している。

イ 【4】文法・表現問題も正答率が高く、対話の内容に応じて、文法の知識を活用することはおおむねよくできている。特に、助動詞 must や疑問詞 + to 不定詞の用法はよく定着している。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 55.2%）

会話の展開を理解した上で、やり取りの流れに応じて適切な表現を用いることができない。

(4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 40.0%）

It is ～ for 人 to 不定詞の構文を用いた表現はよく定着しているが、接触節や間接疑問を用いた表現に誤りが多い。冠詞を適切に用いて表現できない誤答も多く見られた。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 61.6%）

登場人物の発言や行動を整理しながら、物語の展開を正確に捉えることができていない。

(6) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 72.5%）

会話の概要はよく理解できているが、必要な情報を関連付けることができていない。

5 統計資料

(1) 設問別正答率(%) (過去との比較)

〔表2〕は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。本年度より、設問【2】語彙で、従来の記述形式に選択形式の設問を加えて出題した。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、本年度は過年度と比較して、設問【2】語彙の正答率が高く、設問【6】整序・作文の正答率が低いことが分かる。

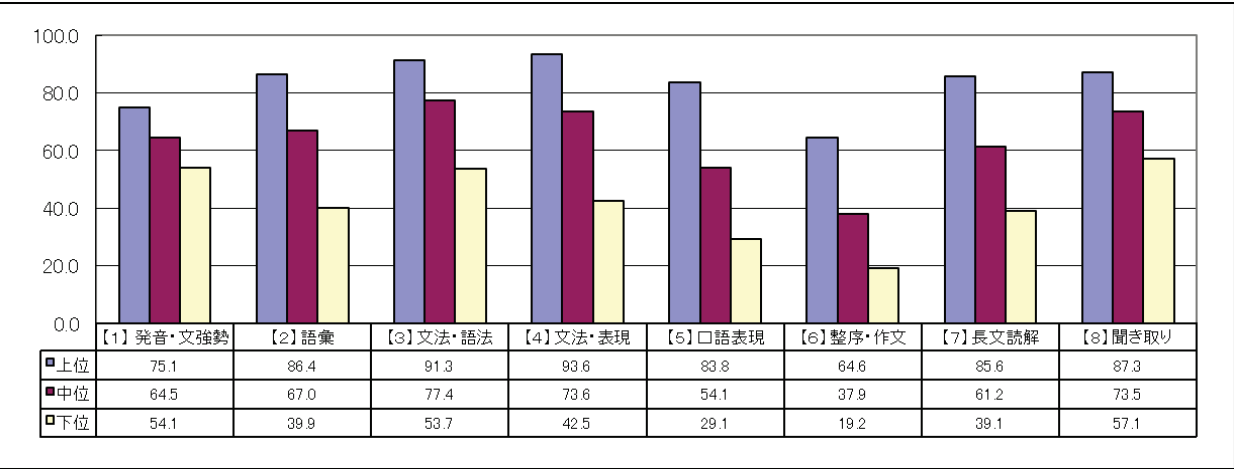
設問別正答率(%)の推移(過去との比較) [表2]

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
抽出人数	3,252	3,158	3,284	3,227	3,204	3,265	3,252	3,207	3,177
全設問	56.6	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2	65.5	59.9	61.9
【1】発音・文強勢	53.3	48.5	65.4	45.2	66.6	46.9	59.8	64.3	64.5
【2】語彙	53.0	54.0	46.4	50.6	41.2	47.9	49.6	35.5	64.5
【3】文法・語法	55.5	67.2	68.8	79.0	67.0	55.7	63.9	56.0	74.3
【4】文法・表現	42.6	66.8	47.9	53.3	40.3	42.9	71.4	59.8	70.1
【5】口語表現	86.4	76.7	70.7	74.4	73.5	45.8	83.9	65.7	55.2
【6】整序・作文	42.8	56.3	65.7	55.6	55.2	55.2	60.9	66.3	40.0
【7】長文読解	54.8	62.3	61.8	63.7	52.7	51.2	60.5	63.3	61.6
【8】聞き取り	72.1	50.6	60.0	70.7	75.1	59.1	75.5	60.4	72.5

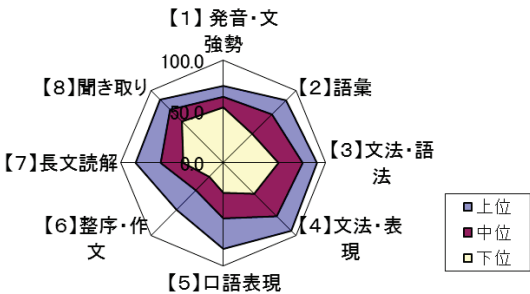
(2) 平成29年度設問別正答率(上位・中位・下位層の比較)

〔図1〕は、全調査校145校(学科・コース)から抽出した3,177名中の学校平均点上位27校(偏差値55以上)に所属する916名(上位層)、学校平均点中位54校(偏差値45以上55未満)に所属する1,310名(中位層)及び学校平均点下位64校(偏差値45未満)に所属する951名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率(%) (上位・中位・下位層の比較) [図1]



設問別正答率(%) [図2]



〔図2〕は〔図1〕をレーダーチャートにしたものである。設問別に各層の正答率を見ると、【4】文法・表現、【5】口語表現で各層の差が大きい。一方、【1】発音・文強勢、【8】聞き取りで各層の差が小さい。【2】語彙で、選択形式の設問を加えたため、各層の正答率が高い傾向にあるのに対して、各層で【6】整序・作文の正答率が最も低く、「英文を書く力」に課題があることが分かる。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音・文強勢問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別及び文における強勢の知識を測る。

【1】 次の(1)～(3)の下線部と発音が同じものを英文中の下線部ア～コから一つずつ選び、記号で答えなさい。また、(4)、(5)の会話において、下線部ア～エのうち最も強く読まれるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) thousand (2) money (3) member

David and his friend, Ken, are eating breakfast at the restaurant. They became friends
in Japan thirteen years ago. At that time, David was a university student who came to Japan
to study Japanese culture. He stayed with Ken's family then.

- (4) A: How can I get a ticket for the concert?
B: You can use the internet to get eone.
(5) A: Who is your brother? Is he playing the guitar?
B: The boy who is playing the piano is my brother.

配点 10点 (各2点)

正解 (1) エ (2) キ (3) イ (4) ウ (5) イ

＜抽出答案における【1】小問別正答率(%)＞

学科・人数 小問	全 体 3,177	普 通 科 2,786	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1) <u>th</u> irteen	64.5	88.7	89.1	89.2	83.8	82.4	100.0
(2) <u>s</u> tudy		30.0	31.7	17.6	13.8	18.9	23.5
(3) <u>b</u> reakfast		64.1	64.4	67.6	58.8	55.4	52.9
(4) <u>I</u> nternet		79.1	79.9	73.0	72.5	66.2	82.4
(5) <u>p</u> iano		60.4	61.4	48.6	57.5	51.4	58.8

本年度は、小問(1)、(2)、(3)を発音に関する問題、(4)、(5)を文における強勢に関する問題とした。
本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、「調査校全体の正答率」という)は64.5%であった。

平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(以下、「分析答案」という)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

＜過年度類題正答率(%)＞

小問	29年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) <u>th</u> ousand [θ]	88.7	54.5(27年度) <u>th</u> ank, 58.0(26年度) <u>cl</u> oth
(2) <u>m</u> oney [Λ]	30.0	25.1(26年度) <u>y</u> oung, 26.8(24年度) <u>w</u> onderful, 42.4(21年度) <u>c</u> ountry
(3) <u>m</u> ember [e]	64.1	61.1(25年度) <u>h</u> eavy, 42.4(22年度) <u>h</u> ead, 39.7(20年度) <u>a</u> lready
(4) 疑問詞の内容	79.1	67.3(28年度), 72.8(27年度)
(5) 対比される情報	60.4	61.0(28年度), 57.4(27年度)

<分析答案による誤答数>

小問（発音）	誤答数	ア [i:]	イ [e]	ウ [ei]	エ [θ]	オ [ou]	カ [ð]	キ [Λ]	ク [i:]	ケ [ð]	コ [æ]	無答
(1) <u>th</u> ousand [θ]	7	1	0	0	正答	0	1	1	0	4	0	0
(2) m <u>o</u> ney [Λ]	74	0	0	6	1	6	1	正答	0	0	60	0
(3) m <u>e</u> mber [e]	39	0	正答	23	0	0	0	2	9	0	5	0
小問（文における強勢）	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答						
(4) 疑問詞の内容	19	4	11	正答	4	0						
(5) 対比される情報	38	29	正答	2	7	0						

<考察>

小問(1)は、[θ] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は88.7%と本問中最も高かった。見出し語 thousand と、thirteen の下線部の発音 [θ] はよく理解されている。

小問(2)は、[Λ] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は30.0%と本問中最も低かった。誤答74例のうち60例が コ family であり、[æ] や [Λ] といった母音の発音が正確に区別されていないと考えられる。

小問(3)は、[e] の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は64.1%であった。誤答39例のうち ウ became が23例あり、[e] と [ei] の発音の違いが十分に理解されていないと考えられる。

小問(4)は、「どのようにして手に入れるのか」という問いかけに答える際に、どの語に強勢を置くかを問う問題である。調査校全体の正答率は79.1%とよくできていた。疑問詞 how に対して、ウ Internet に強勢を置くことは、判断しやすかったようである。

小問(5)は、「ギターを弾いているのがあなたの兄（弟）か」という問いかけに対して、「ピアノを弾いているのが兄（弟）である」と答える際に、どの語に強勢を置くかを問う問題である。調査校全体の正答率は60.4%であった。誤答38例のうち29例が ア boy であった。これは、Who is ...? で始まる問いかけに対して、主語の boy に注目し、後に続く文意に注意を払わずに判断したためと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(2)に見られるように、[æ] や [Λ] などの母音の発音が正確に区別できていない。

<具体的な指導例>

(1) 教師に続いて、発音のよく似た語の組み合わせ（ミニマル・ペア）を発音する。

例 cap – cup / bat – but / fan – fun / carry – curry / lack – luck など

(2) 教師の発音を聞き分ける。

(3) ペアでどちらの音が発音されたか確認し合う。

(4) 実際の会話の場面を想定しながら、会話練習を行う。

【会話例】（下線部は正確な発音を身に付けさせたい箇所）

A: Did you see the game last night?

B: Which game, football or basketball?

A: Basketball. I'm a big fan of the "Lucky" team.

B: Are you? I have never thought you are interested in any sport.

But it is really fun to watch a basketball game, isn't it?

(2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙力が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)～(5)の文中の()内に入る最も適当な語をア～エから選び、記号で答えなさい。また、(6)～(10)の文中の()内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) Cell phones are very useful and () in our lives. We can't live without them.
ア careful イ difficult ウ necessary エ poor
- (2) I am interested in Utagawa Hiroshige. He painted many ukiyo-e prints.
Ukiyo-e is a part of Japanese ().
ア festivals イ hospitals ウ nature エ tradition
- (3) A: Jun is a good musician. What do you think?
B: I (). He plays the violin very well.
ア agree イ hate ウ prepare エ worry
- (4) A: Kumi, what does this sign ()?
B: It says that you must take off your shoes here.
ア find イ mean ウ see エ take
- (5) A: Erika, did you visit your grandparents this summer?
B: No, I don't need to visit them. We live ().
ア again イ alone ウ together エ tomorrow
- (6) Saki speaks English, Chinese, and Korean. And she wants to learn another foreign (l).
- (7) My father loves the Olympic Games very much. He took me to Rio de Janeiro (d) summer vacation.
- (8) Many animals in the rain forest of the Amazon are losing their home. Do you have any ideas to solve this (p)?
- (9) A: It's very hot today. Let's go to the sea. I want to swim.
B: I have a (d) idea. Let's go to the library. It's cool inside.
- (10) A: Why are you studying English so hard?
B: Because my dream is to be a basketball player in America in the (f).

配点：10点（各1点）

正解 (1) ウ (2) エ (3) ア (4) イ (5) ウ
(6) language (7) during (8) problem (9) different (10) future

<抽出答案における【2】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 3,177	普 通 科 2,786	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1) necessary	86.2	87.7	81.8	73.8	70.3	100.0	66.7
(2) tradition	88.0	89.0	82.4	83.8	71.6	100.0	79.2
(3) agree	86.1	87.0	83.8	83.8	74.3	100.0	69.4
(4) mean	74.0	77.1	53.4	52.5	41.9	100.0	50.0
(5) together	74.1	76.6	56.8	60.0	50.0	88.2	51.4
(6) language	61.3	62.9	50.7	52.5	44.6	76.5	43.1
(7) during	53.4	56.9	30.4	20.0	25.7	88.2	19.4
(8) problem	35.4	38.2	17.6	10.0	9.5	64.7	12.5
(9) different	30.2	32.7	15.5	5.0	10.8	64.7	2.8
(10) future	55.8	58.0	42.6	32.5	40.5	94.1	31.9

調査校全体の正答率は64.5%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	29 年度正答率	過年度正答率 (出題年度)
(3) agree	86.1	18.6 (26 年度)
(6) language	61.3	44.5 (24 年度), 35.4 (22 年度), 55.8 (20 年度)
(7) during	53.4	52.3 (26 年度), 52.9 (25 年度), 39.4 (19 年度)
(9) different	30.2	38.5 (28 年度)
(10) future	55.8	57.0 (27 年度)

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) necessary	5	3	2	正答	0	0
(2) tradition	7	2	3	2	正答	0
(3) agree	11	正答	6	5	0	0
(4) mean	29	4	正答	5	20	0
(5) together	25	8	13	正答	4	0

小問	誤答数	つづりの誤り (数)		その他の誤り (数)		無答
(6) language	29	26	languages (18), langage (5), langages (1) 等	3	longest (1), love (1), luggage (1)	0
(7) during	42	9	dring (2), daring (2), dualing (1), duaring (1) 等	15	did (8), does (2), doing (2), in (2) 等	18
(8) problem	79	15	probrem (8), pproblem (5) 等	55	plan (13), people (4), poor (4), point (3) 等	9
(9) different	78	10	diffarent (4), diffrent (3), diffelent (1), diferent (1) 等	48	difference (7), disagree (6), don't (5), doing (2) 等	20
(10) future	47	8	futer (3), futuer (2) 等	29	famous (5), first (3), from (3), family (2) 等	10

<考察>

小問(1)から(5)までは文中の適語補充の選択式問題, (6)から(10)までは対話文中の適語補充問題とした。

小問(1) necessary の調査校全体の正答率は 86.2%と高かった。文脈から適切に判断して necessary という語を選べたようである。

小問(2) tradition の調査校全体の正答率は 88.0%と高かった。NEW HORIZON 3 Unit 1 で学習した内容が定着していると言える。

小問(3) agree の調査校全体の正答率は 86.1%と高かった。NEW HORIZON 3 Unit 5 で学習した I agree. という表現が定着していると言える。

小問(4) mean の調査校全体の正答率は 74.0%とよくできていた。誤答 29 例のうち 20 例がエ take であった。直後の文中の take という語から、誤って判断したと考えられる。

小問(5) together の調査校全体の正答率は 74.1%とよくできていた。誤答 25 例のうち 13 例がイ alone であった。直前の動詞 live との結び付きから、誤って判断したと考えられる。

小問(6) language の調査校全体の正答率は 61.3%であった。文脈から判断して、language とい

う語を思い浮かべることはできているようである。

小問(7) **during** の調査校全体の正答率は 53.4%であった。期間を表す **vacation** から **during** という語を思い浮かべることが難しかったようである。

小問(8) **problem** の調査校全体の正答率は 35.4%と低かった。誤答 79 例のうち 55 例がその他の誤りであり、前半が問題を示唆していることを把握できず、**problem** という語を思い浮かべることができなかったようである。

小問(9) **different** の調査校全体の正答率は 30.2%で本問中最も低かった。I have a different idea という表現が定着していないようである。

小問(10) **future** の調査校全体の正答率は 55.8%であった。文脈を正しく理解できず、**future** という語を思い浮かべることが難しかったようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(7), (9), (10)のように文脈の中で適切な表現を用いることができない。

<具体的な指導例>

(1) 各表現の意味を確認する。

during summer vacation 「夏休みの間」, have a different idea 「異なる考えをもつ」
in the future 「将来」

(2) 文脈に応じて空欄に適する表現を入れる。

They want to perform a play in the school festival _____. But I _____.
I want to sing songs because I want to be a singer _____.

(3) ペアで会話を完成させる。空欄は自由に答えさせる。

【会話例】

A: They want to perform a play in the school festival. I have a different idea.

B: What do you want to do?

A: I _____. How about you?

B: I _____.

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、() 内に入る最も適当な語(句)をア～エから選び、記号で答えなさい。

(1) Could you tell Becky () early? We're going to do our homework.

ア came イ come ウ coming エ to come

(2) Mr. Obama won the Nobel Peace Prize () 2009.

ア at イ in ウ on エ since

(3) The clock tower was built by Benjamin, () people call it Big Ben.

ア because イ if ウ or エ so

(4) () do you want to visit next weekend, Kyoto or Tokyo?

ア What イ When ウ Which エ Why

(5) Can you see the boy () by the door? He is a new member of our team.

ア standing イ stands ウ stood エ to standing

配点：10 点（各 2 点）

正解 (1) エ (2) イ (3) エ (4) ウ (5) ア

＜抽出答案における【3】小問別正答率（％）＞

学科・人数 小問	全 体 3,177	普 通 科 2,786	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1) to come	74.3	57.6	60.0	41.9	41.3	41.9	33.3
(2) in		72.0	73.2	64.2	65.0	63.5	54.2
(3) so		74.4	76.2	63.5	58.8	54.1	100.0
(4) Which		88.4	89.9	81.8	73.8	75.7	100.0
(5) standing		79.2	80.7	68.2	67.5	63.5	100.0

調査校全体の正答率は 74.3％であった。

＜過年度類題正答率（％）＞

小問	29 年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(3) 接続詞 so の用法	74.4	56.8（25 年度）
(5) 現在分詞の用法（後置修飾）	79.2	75.2（26 年度）
過去分詞の用法（後置修飾）		33.2（28 年度），67.5（25 年度）

＜分析答案による誤答数＞

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) to come	44	7	19	18	正答	0
(2) in	22	5	正答	9	8	0
(3) so	28	25	2	1	正答	0
(4) Which	5	5	0	正答	0	0
(5) standing	16	正答	7	4	5	0

＜考察＞

小問(1)は、tell + 人 + to 不定詞の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 57.6％と本問中最も低かった。誤答は イ come と ウ coming に集中しており、この用法は十分に定着していないようである。

小問(2)は、年の前に置く前置詞が正しく使えるかを問う問題である。調査校全体の正答率は 72.0％とよくできていた。この前置詞 in の用法はおおむねよく理解されているようである。

小問(3)は、文脈に合う適切な接続詞 so を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 74.4％であり過年度類題正答率と比べて高かった。誤答 28 例のうち 25 例は ア because を選んでおり、これは原因と結果の関係を正しく理解できなかったためと思われる。

小問(4)は、文脈に合う適切な疑問詞 Which を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 88.4％と本問中最も高かった。文末に Kyoto or Tokyo と選択肢が示されていることが大きなヒントになったと思われる。

小問(5)は、後置修飾の現在分詞 standing を選択させる問題である。調査校全体の正答率は 79.2％とよくできていた。過年度の傾向からも、分詞の後置修飾は、過去分詞より現在分詞の方が文意から判断しやすいようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(1)に見られるように、tell + 人 + to 不定詞の用法が定着していない。

<具体的な指導例>

- (1) ペアで命令文を考えさせ、その内容を tell / ask + 人 + to 不定詞を用いて表現させる。
- (2) またその逆に tell / ask + 人 + to 不定詞の文から、実際どのような台詞（命令文）が発せられたのか言わせる。

【ワークシート例】

- ① それぞれの人が言う命令文を考えてみよう。
- ② tell / ask + 人 + to 不定詞を用いて文を作ってみよう。
- ③ 次に出来上がった文からもう一度命令文を思い出して言ってみよう。

Teacher: Be quiet. ⇔ My teacher told us to be quiet.

Mother: Please wash the dishes. ⇔ My mother asked me to wash the dishes.

Father: Don't come back so late. ⇔ My father told me not to come back so late.

Friend: _____ ⇔ _____.

- (3) want + 人 + to 不定詞の表現を用いて、ペアやグループで相手にしてほしいことを伝え合いながら、会話を続けさせる。

【会話例】

A: May I ask you a favor?

B: What do you want, mom?

A: I want you to wash the dishes.

B: Sure. I also have a favor for you. I want you to _____.

A: No problem.

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)の会話が成立するように、()内に入る最も適当な語(句)をア～エから選び、記号で答えなさい。

- (1) A: What are you doing here? You () use your cell phone in school.

B: I'm sorry, but I have to call my mother now.

ア aren't イ do ウ may エ mustn't

- (2) A: I don't know () buy for Meg's birthday. Do you have any ideas?

B: How about a book? She likes Natsume Soseki.

ア what to イ when to ウ where to エ why to

- (3) A: Oh, I have left my watch in my classroom. I'll go to get it.

B: OK, I'll wait here () you come back.

ア after イ since ウ until エ when

- (4) A: () do the trains come?

B: They come every thirty minutes.

ア How long イ How often ウ Where エ Why

- (5) A: I hear Ted came back from Australia. Did you see him?

B: No. I () him for two years.

ア didn't see イ don't see ウ haven't seen エ won't see

配点：10点（各2点） 正解（1）エ （2）ア （3）ウ （4）イ （5）ウ

<抽出答案における【4】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 3,177		普 通 科 2,786	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1) mustn't	70.1	79.1	81.5	64.2	63.8	60.8	82.4	51.4
(2) what to		79.7	81.9	67.6	60.0	59.5	100.0	56.9
(3) until		66.7	69.8	43.2	37.5	33.8	100.0	51.4
(4) How often		70.2	72.7	54.1	42.5	52.7	82.4	50.0
(5) haven't seen		54.7	58.0	34.5	28.8	27.0	76.5	19.4

調査校全体の正答率は 70.1％であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	29 年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(2) 疑問詞 + to 不定詞	79.7	76.2（28 年度），80.7（27 年度）
(4) How often	70.2	71.5（28 年度），61.4（23 年度）
(5) 現在完了の用法（継続）	54.7	47.4（25 年度）

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) mustn't	19	10	0	9	正答	0
(2) what to	16	正答	10	4	2	0
(3) until	39	6	5	正答	28	0
(4) How often	31	30	正答	1	0	0
(5) haven't seen	49	45	4	正答	0	0

<考察>

小問(1)は、助動詞 **must** の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 79.1％であった。この用法についてはよく理解できていた。

小問(2)は、疑問詞 + **to** 不定詞を用いた表現に関する問題である。調査校全体の正答率は 79.7％と本問中最も高かった。**what** + **to** 不定詞を用いた表現はよく定着している。

小問(3)は、**until** の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は 66.7％であった。誤答 39 例のうち 28 例が **エ when** に集中しており、これは、接続詞 **when** と **until** の用法の違いが正しく理解されていないためと考えられる。

小問(4)は、疑問詞 **how** を用いた表現に関する問題である。調査校全体の正答率は 70.2％であった。誤答 31 例のうち 30 例が **ア How long** を選択しており、これは応答の **every thirty minutes** を正確に理解できず、頻度を問うための **イ How often** の表現を導くことができなかったためと考えられる。

小問(5)は、現在完了の用法（継続）を問う問題である。調査校全体の正答率は 54.7％で、本問中最も低かった。誤答 49 例のうち 45 例が **ア didn't see** を選択しており、これは **Did you see him?** という問いかけへの応答において、期間を表す **for** に着目することができなかったためと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(3)，(5)に見られるように，継続を表す接続詞や現在完了の用法が定着していない。

<具体的な指導例>

(1) 英文を読ませ，文脈から適切な接続詞や前置詞を考えさせる。

I have to go () it gets dark.

Wait in a safe place () the alarm stops.

I have been very busy () the whole week.

(2) 用いられている接続詞や前置詞に合わせて英文を書かせる。

I _____ for more than a year. *more than～: ～以上

I _____ until I finish homework.

I _____ when I was an elementary school student.

(3) 期間や継続を表す表現を用いた会話例を示し，ペアで互いに質問をさせて，下線部を自由に答えさせる。

【会話例】

A: It will be rainy. What will you do?

B: Until it stops raining, I will continue reading a book.

A: What are you doing?

B: For two hours, I have watched TV (have been watching TV).

(5) 口語表現問題

出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は母親(Mom)と息子(Sam)の会話です。(1)～(5)に入る最も適当な表現をア～コから選び、記号で答えなさい。ただし、各表現は一度しか使えません。

Mom: Sam, what are you doing? (1)

Sam : What do you want, Mom?

Mom: We used a lot of dishes at dinner and I cannot wash all of them.
Please help me to wash the dishes.

Sam : (2) I have a lot of homework to do today. I really need to start
working on my math homework.

Mom: (3) You had enough time then.

Sam : I was very tired. I practiced soccer really hard today.

Mom: Sam, I often ask you to help me with something around the house.
(4) Sometimes you should be kind.

Sam : Lucy is not doing anything every day. (5)

Mom: Sam, a four-year-old girl doesn't know how to wash the dishes! And
she is getting ready to sleep. Just help me for a few minutes, OK?

Sam : All right. I'll do it. Then I'll finish my homework.

ア What can I do for her?

ウ I'm sorry, I can't.

オ May I ask you a favor?

キ Shall I wash the dishes?

ケ Why don't you ask her to help you?

イ I want Lucy to cook dinner.

エ You always say no.

カ You're welcome.

ク What were you doing before dinner?

コ How about doing your homework?

配点：10点（各2点） 正解 (1) オ (2) ウ (3) ク (4) エ (5) ケ

＜抽出答案における【５】小問別正答率（％）＞

学科・人数 小問	全 体 3, 177		普 通 科 2, 786	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1) May I ask you a favor?	55. 2	51. 1	53. 2	45. 3	22. 5	28. 4	82. 4	29. 2
(2) I'm sorry, I can't.		85. 5	87. 0	81. 1	70. 0	73. 0	100. 0	63. 9
(3) What were you doing before dinner?		42. 8	45. 2	27. 7	20. 0	16. 2	76. 5	27. 8
(4) You always say no.		49. 5	52. 4	24. 3	30. 0	23. 0	76. 5	33. 3
(5) Why don't you ask her to help you?		47. 1	50. 1	24. 3	22. 5	24. 3	76. 5	22. 2

調査校全体の正答率は 55.2％であった。

＜分析答案による誤答数＞

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) May I ask you a favor?	36	1	7	0	5	正答	0	7	5	6	3	2
(2) I'm sorry, I can't.	3	1	0	正答	0	0	0	1	0	0	1	0
(3) What were you doing before dinner?	67	0	1	1	23	2	0	3	正答	9	26	2
(4) You always say no.	65	8	21	2	正答	2	2	6	7	7	3	7
(5) Why don't you ask her to help you?	61	12	24	0	9	4	1	2	1	正答	2	6

＜考察＞

小問(1)は、Mom が Sam に頼み事をする場面である。調査校全体の正答率は 51.1％であった。誤答は分散しており、対話の流れを捉えて オ May I ask you a favor? を選ぶことができなかったようである。

小問(2)は、Mom の「皿洗いを手伝って欲しい」という依頼に対する Sam の返答を問う問題である。調査校全体の正答率は 85.5％と高かった。Sam が宿題が多いという理由で依頼を断る場面は、理解しやすかったようである。

小問(3)は、Sam に対して Mom が「夕食前に何をしていたか」と尋ねる問題である。調査校全体の正答率は 42.8％で、本問中最も低かった。誤答 67 例のうち 26 例が コ How about doing your homework? で、23 例が エ You always say no. であった。これは、後に続く You had enough time then. を手がかりに、会話の展開を正しく理解することができなかったためと考えられる。

小問(4)は、Mom が Sam の日頃の態度を注意している場面である。調査校全体の正答率は 49.5％であった。誤答 65 例のうち 21 例が イ I want Lucy to cook dinner. であり、これは次の Sam の発話に Lucy が出ているためと考えられる。

小問(5)は、Sam が Mom に「Lucy に皿洗いを手伝ってもらったらどうか」と言う場面である。調査校全体の正答率は 47.1％と本問中で 2 番目に低かった。誤答 61 例のうち 24 例が イ I want Lucy to cook dinner. であり、これは皿洗いに関してのやり取りであることを理解できていないためと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

発話数が多く複雑な会話において、その文脈を正しく理解することができない。

<具体的な指導例>

会話でよく使われる表現を用いてスキット練習をさせる。単文でのやり取りではなく、できるだけ情報を多くしたり、質問で発話を終えたりするというルールで行わせる。

【会話例】(友人と週末の予定について詳しく話している場面)

A: Hey, how are you feeling?

B: I'm doing all right, thanks. How about you?

A: I'm good, too. You said you liked the restaurant you went to last weekend with your friends, right?
I am planning to go there with my girlfriend this weekend. Will you tell me what we should wear
and how much I should take with me?

B: Sure! I recommend you wear your jacket and leather shoes. The food is fantastic but a little
expensive. Maybe you need about 5,000 yen each.

A: Wow, that expensive? I can't afford it so I will have to find another one. Thanks for your advice
anyway!

B: No problem. Oh, I've got to go now. I will talk to you later, OK?

A: All right, see you later!

この会話文を練習した後で、下線部を空欄にしたプリントを与え、積極的な発話を促しながらペアでオリジナルの会話を組み立てさせる。教師が添削し、会話練習をさせた後、原稿を見ずに発表させる。

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力、基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の会話が成立するように、(1)~(3)は[]内の語を全部用いて下線部の英文を完成させなさい。また、(4)、(5)は()内に3語以上の英語を入れて下線部の英文を完成させなさい。ただし、[]内の語をこの順序で使いなさい。

(1) A: I saw you with a girl near the station yesterday. Who was that girl? Your sister?

B: No. [person / saw / the / was / you] my mother. She looks young.

(2) A: [drink / like / something / to / would / you]?

B: Yes. Hot coffee, please.

(3) A: I'm hungry. I had no time to eat breakfast this morning.

B: Really? [for / important / is / it / to / you] eat breakfast.

(4) A: Who is the best baseball player in Japan?

B: I think Otani is the best.

C: I don't think so. I think Ichiro () Otani.

A: I think so, too. Ichiro is the best. [better, player]

(5) A: My father says to me, "Don't go out at night."

B: () says so? [know, why]

A: Yes. I think he loves me.

配点：15点（各3点 部分点なし）

- 正答 (1) The person you saw was (2) Would you like something to drink
(3) It is important for you to (4) is a better player than
(5) Do you know why he

<抽出答案における【6】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 3,177	普 通 科 2,786	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1)	40.0	28.0	30.8	4.1	3.8	6.8	5.6
(2)		56.9	59.2	44.6	33.8	37.8	37.5
(3)		79.5	81.6	72.3	63.8	58.1	100.0
(4)		4.3	4.8	0.0	2.5	1.4	0.0
(5)		31.5	34.2	13.5	7.5	10.8	5.6

小問(1)から(3)までは、会話を完成させる整序問題、小問(4)、(5)は、会話が成立するように指定された語を用いて表現させる形式とした。なお、いずれの小問にも日本語は示さないこととした。調査校全体の正答率は40.0%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	29年度 正答率	過年度正答率（出題年度）
(1) 後置修飾（接触節）	28.0	35.0（26年度） The book he bought last year is very popular. 78.4（23年度） This is the book I bought yesterday. 37.1（22年度） The book she wrote last year is very popular.
(2) 不定詞の形容詞的用法	56.9	70.7（26年度） I have many friends to help me.
(3) 形式主語構文 It is ～ for 人 to 不定詞	79.5	63.8（28年度） It is difficult for me to explain it. 71.8（27年度） It is important for you to have breakfast. 65.7（22年度） It was easy for me to answer the question.
(5) 間接疑問	31.5	63.2（28年度） Do you know who she is? 37.5（27年度） Do you know where my notebook is? 64.5（25年度） I don't know why he said so. 53.0（23年度） Do you know where she will go tomorrow?

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数
(1)	82
(2)	45
(3)	8
(4)	91
(5)	55

<考察>

小問(1)は、接触節を用いて主語を正しく表現することができるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は28.0%と低かった。

- | | |
|---|------|
| 誤答例 ① You saw the person was my mother. | 53 例 |
| ② You saw was the person my mother. | 14 例 |

誤答 82 例のうち 74 例が You を主語として書き出しており、主語を正しく表現することができなかった。主語における後置修飾（接触節）の用法が理解されていないようである。

小問(2)は、to 不定詞の形容詞的用法を用いた表現ができるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 56.9%であった。

誤答例 ①	Would you like to something drink?	37 例
②	Would you like drink to something?	3 例

誤答 45 例全てが Would you like ~ と書き出していた。Would you like というフレーズは定着しているが、不定詞の形容詞的用法について正しく理解されていないようである。

小問(3)は、形式主語構文 It is ~ for 人 to 不定詞 の形を用いて表現できるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 79.5%と本問中最も高かった。形式主語構文はよく定着しているようである。

小問(4)は、二人の人物について比較する表現ができるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 4.3%と今回の調査全体で最も低かった。

誤答例 ①	Ichiro is better player than Otani.	47 例
②	Ichiro is better than player Otani.	11 例

極端に正答率の低い結果となったが、誤答 91 例のうち 84 例が than を用いて解答しており、大半の生徒が比較表現を用いることを認識できていた。一方で、誤答 91 例のうち誤答例 ① を含む 51 例では冠詞を正しく用いることができていなかった。

小問(5)は、間接疑問を用いた表現ができるかを確かめる問題である。調査校全体の正答率は 31.5%と低かった。

誤答例 ①	Do you know why says so?	11 例
②	Do you know why to says so?	9 例

誤答 55 例のうち、誤答例 ① , ② を含む 34 例では Do you know why までは書けていたものの、why に続く部分での誤りの種類が多岐にわたっている。間接疑問を用いた表現が定着していないようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(5)のように、間接疑問の表現が定着していない。

<具体的な指導例>

(1) 間接疑問文 Do you know 疑問詞 ~ ? を用いた会話例を板書等で示し、疑問詞に平叙文の語順が続くことを意識させる。また間接疑問文を用いることで、相手に対してより礼儀正しく質問することができるという側面についても指導する。

(2) ペアで、知らない人に道を尋ねるという場面を設定し、一方が「～がどこにあるか知っていますか」と聞き、もう一方がその場所への行き方を答えるという活動を行う。生徒に配付する簡単な地図は、ペアの間で information gap があるようなものにするといよい。

【会話例】

A: Do you know where the post office is?

B: Sure. Go straight and turn left at the second corner. Then, go two blocks and you can see it on your right.

(3) I'm wondering 疑問詞 ～ . や Could you tell me 疑問詞 ～ ? など, 他の間接疑問文の形を導入し, (2)と同じ場面設定で短いスキットを作らせ, ペアで発表させる。

【会話例】

A: Excuse me. Could you tell me where the post office is?

B: Sure. Go straight and turn left at the second corner. Then, go two blocks and you can see it on your right.

A: Turn left at the second corner, and go two blocks. I see. Well, do you know what time it closes?

B: I think it closes at five. It's 3:30 now, so you don't need to rush.

A: Thank you very much.

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。

【7】 次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

Nancy was a writer of picture books. Every morning she worked, and in the afternoons she took care of the beautiful flowers in her garden.

One day, Nancy saw a little girl. She was standing in front of the garden. Nancy smiled at her and asked, "Do you like flowers?"

"Yes, I do. I want to show these flowers to my mother. She is sick in bed," answered the girl.

Nancy said, "You are so kind. (1) You can take some to her. What's your name?"

"My name is Sakura. Nice to meet you."

They talked about flowers. They had a wonderful afternoon.

"Come again, Sakura," said Nancy. "I think we will become good friends."

They became good friends, but one year later, Sakura got (2) sad news. She ran to Nancy's house and said, "My family will move to Boston. I don't want to leave this village."

Twenty years later, in Boston

Sakura was working as a doctor and her husband, Kevin, was working as an English teacher. (3) They had a child, Emi.

Sakura worked very hard, but (4) she sometimes felt sad. She thought, "Am I a good doctor? Am I a good mother? Is this a good life?"

One evening, Emi said to Sakura, "Mommy, dad bought a nice picture book for me. Please read this book to me."

"Sorry, but I'm busy now. I have to cook," answered Sakura.

"(5) I will do it today. Please enjoy the book with Emi," Kevin said.

"Thank you," answered Sakura. Then she read the book to Emi. It was a warm story about a little girl and a woman, and there were beautiful pictures of flowers in the book. On one page, the girl talked with the woman in the garden.

"*What do you want to be?*" asked the woman.

"*I don't know, but I want to be like flowers. Flowers always give people hope, and flowers make people happier,*" answered the girl.

When Sakura saw this page, she suddenly remembered.

"This is Nancy's garden!"

Twenty years ago (6) they said the same thing in the garden. On the first page, Sakura found the writer's message.

"*This book is for my dear friend, Sakura.*"

Sakura said to herself, "I remember that day. (7) I will be like flowers." Sakura held Emi in her arms, and Emi smiled at Sakura.

- 問1 下線部(1)が表す内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア Nancy can write picture books for Sakura's mother.
 - イ Nancy can sometimes visit Sakura's mother.
 - ウ Sakura can give some flowers to her mother.
 - エ Sakura can come to see her mother tomorrow.
- 問2 下線部(2)の具体的な内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア Nancy will leave the village and move to Boston.
 - イ Sakura's family will leave the village and move to Boston.
 - ウ Sakura's mother is sick and can't come to the garden.
 - エ Sakura's parents will move to Boston and she will be in the village.
- 問3 下線部(3)と(6)が具体的に誰を指すか、組み合わせとして正しいものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア (3) Sakura and Nancy (6) Sakura and Emi
 - イ (3) Sakura and Kevin (6) Sakura and Nancy
 - ウ (3) Sakura and Nancy (6) Sakura and Nancy
 - エ (3) Sakura and Kevin (6) Sakura and Emi
- 問4 下線部(4)に関して、次の質問に対する答えとして最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- Why did Sakura feel sad?
- ア Because Kevin was very busy and he didn't take care of Emi.
 - イ Because people in Boston were not kind to her.
 - ウ Because she didn't have time to take care of her flowers.
 - エ Because she was not sure that her life was good.
- 問5 下線部(5)が表す内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア Kevin will cook dinner.
 - イ Kevin will enjoy the picture book.
 - ウ Kevin will read the picture book to Emi.
 - エ Kevin will talk with Emi.
- 問6 下線部(7)における Sakura の気持ちとして最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア "I will be loved by my family."
 - イ "I will like flowers much better than before."
 - ウ "I will give hope to people around me and make them happier."
 - エ "I will write a good picture book to Emi."
- 問7 Emi が書いた日記として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
- ア Today, my father read a picture book to me. Many beautiful flowers and a girl were painted in the book. My mother said, "That girl was me." She looked very surprised.
 - イ Today, my father bought a picture book for me. Two beautiful girls talked in the flower garden. My mother said, "One of the girls was you." She looked very happy.
 - ウ Today, my mother bought a picture book to me. A girl painted many beautiful flowers in the book. My mother said, "That girl was you." She looked very surprised.
 - エ Today, my mother read a picture book to me. Many beautiful flowers and a girl were painted in the book. My mother said, "That girl was me." She looked very happy.

<p>問8 本文の内容に合うように次の英文を起こった順に並べかえた時、最も適当なものをア～エから選び、記号で答えなさい。</p> <p>1 Sakura read a picture book to Emi. 2 Sakura met Nancy at the garden. 3 Sakura started working as a doctor. 4 Sakura remembered Nancy's garden. ア 2 → 3 → 1 → 4 イ 2 → 3 → 4 → 1 ウ 3 → 2 → 1 → 4 エ 3 → 2 → 4 → 1</p> <p>問9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で答えなさい。</p> <p>ア Nancy took care of the beautiful flowers in the garden every morning. イ Nancy and Sakura became good friends after they talked about flowers. ウ Twenty years later, Sakura met Nancy again in Boston. エ Both Sakura and Kevin were working at a hospital. オ Kevin bought a nice picture book for Sakura, and Emi wanted her to read it. カ The picture book that Sakura read to Emi was written by Nancy. キ Emi smiled at Sakura and said, "I will be like flowers."</p>									
<p>配点：20点（各2点）</p> <p>正解 問1 ウ 問2 イ 問3 イ 問4 エ 問5 ア 問6 ウ 問7 エ 問8 ア 問9 イ、カ</p>									

<抽出答案における【7】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問		全 体 3,177	普 通 科 2,786	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
問 1		79.1	80.7	70.3	67.5	58.1	100.0	62.5
問 2		72.3	74.4	57.4	67.5	44.6	94.1	50.0
問 3		65.7	67.4	53.4	48.8	51.4	82.4	52.8
問 4		62.4	64.8	45.9	45.0	37.8	88.2	43.1
問 5		54.4	57.0	34.5	35.0	29.7	76.5	38.9
問 6		46.2	48.7	27.7	21.3	23.0	64.7	34.7
問 7		58.4	60.7	48.0	38.8	32.4	82.4	34.7
問 8		65.3	67.5	52.7	53.8	39.2	82.4	43.1
問 9	イ	56.8	58.9	41.9	32.5	37.8	88.2	48.6
	カ	55.5	57.3	43.2	38.8	41.9	76.5	38.9

調査校全体の正答率は61.6%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問 1	18	5	7	正答	6				0
問 2	22	10	正答	4	8				0
問 3	41	5	正答	3	33				0
問 4	37	15	3	17	正答				2
問 5	53	正答	9	34	5				5
問 6	68	20	35	正答	9				4
問 7	43	16	8	10	正答				9
問 8	34	正答	16	5	6				7
問 9	98	9	正答	10	15	11	正答	29	24

<考察>

問1は、Nancy が庭の前に立っている Sakura に伝えた内容を問う問題である。調査校全体の正答率は79.1%と本問中最も高かった。直前の二人の会話から Nancy の許可を読み取ることができたようである。

問2は、Sakura が受け取った悲しい知らせの内容を問う問題である。調査校全体の正答率は72.3%とよくできていた。直後に Sakura がその内容を Nancy に伝えていることから、容易に理解できたようである。

問3は、代名詞 they が指す人物を問う問題である。調査校全体の正答率は65.7%であった。誤答41例のうち エ が33例あり、下線部(6)が Sakura と Nancy を指していることが分からなかった。直前の Twenty years ago と冒頭の場面とを結び付けることができなかったようである。

問4は、Sakura が時々悲しく感じる理由を問う問題である。調査校全体の正答率は62.4%であった。直後に書かれている Sakura の思いを正確に理解できていない誤答が見られた。

問5は、Kevin が Sakura に伝えた内容を問う問題である。調査校全体の正答率は54.4%であった。誤答53例のうち34例は ウ Kevin will read the picture book to Emi. であった。直後の Please enjoy the book with Emi. を正しく理解できなかったようである。

問6は、Sakura の言葉から気持ちを読み取る問題である。調査校全体の正答率は46.2%と本問中最も低かった。誤答68例のうち35例は イ I will like flowers much better than before. であった。前置詞 like と動詞 like を混同したようである。

問7は、Emi が書いた日記から、物語の内容を問う問題である。調査校全体の正答率は58.4%であった。誤答は分散しており、登場人物の行動や絵本の内容が整理されていないようである。

問8は、本文中に書かれている出来事の起こった順序を問う問題である。調査校全体の正答率は65.3%であった。誤答34例のうち イ が16例あり、絵本を読んだことをきっかけに過去の出来事を思い出した Sakura の心の動きを理解できなかったようである。

問9は、本文の内容に一致するものを二つ選択する問題である。調査校全体の正答率は、イ が56.8%、力 が55.5%であった。誤答98例のうち キ Emi smiled at Sakura and said, "I will be like flowers." が29例あり、登場人物と発言内容が正確に把握できなかったようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

問5, 7, 9に見られるように、登場人物の発言とそれぞれの人物の行動を結び付けることができないため、物語の流れを理解することができない。

<具体的な指導例>

英文を読ませた後で、物語を台本として書き起こさせる。本文には書かれていないセリフや細かい動きも書き加え、実際に演じてみることで、いっそうの理解を促す。

【ワークシート例】

Emi : _____

Sakura : _____

Kevin : _____

(以下続く)

【会話例】

Emi : [*to Sakura*] Mommy, dad bought a nice picture book for me. Please read this book to me.

Sakura : [*to Emi*] Sorry, but I'm busy now. I have to cook.

Kevin : [*looking up from the newspaper*] I will do it today. Please enjoy the book with Emi.
I'm sure you'll like the book. [*Kevin goes to the kitchen.*]

Sakura : [*to Kevin*] Thank you, Kevin. [*to Emi*] Come on, Emi. I'll read the book.
[*Sakura and Emi go to the living room.*]

Emi : [*to Sakura*] Thank you, mom.

Sakura : [*opening the book*] What kind of story is this? ... Oh, look at this picture!

Emi : [*looking at the picture*] So beautiful!

Sakura : This is Nancy's garden. When I was a little girl, I would talk with her in this garden.

Kevin : [*from the kitchen*] Really? Do you know the writer?

(8) 聞き取り問題

出題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

これから問題8「聞き取り」問題を始めます。必要があればメモをとってもかまいません。最初に Judy と Hiro との会話文が読まれます。続いて、それについての問いが5問読まれます。次に会話文がもう一度読まれ、問いとそれに対する四つの答え、(a)、(b)、(c)、(d)が読まれます。正しいものには○、そうでないものには×をつけなさい。正しい答えは、それぞれ一つしかありません。答えは一度しか読まれません。それでは、始めます。

Judy: Hi, Hiro.

Hiro: Hi, Judy. I climbed Mt. Fuji with my parents last weekend. We enjoyed the beautiful sunrise.

Judy: Oh, did you? Was it hard to climb Mt. Fuji?

Hiro: Yes, very much. We went there half way by bus and started to climb up at night. We walked for about 7 hours.

Judy: Really!? I can't walk for that long!

Hiro: Of course we rested many times. Many people climbed to the highest point and said hello to each other. Look at this picture. I took it from the highest point of Mt. Fuji.

Judy: Wow, you are above the clouds! The sky is so blue.

Hiro: It was a beautiful day. Hey, do you have any plans for next weekend?

Judy: Yes, I will go to Tokyo to see my friend on Saturday.

Hiro: Will you take the Shinkansen from Nagoya Station?

Judy: Yes, I will leave at 9:10 a.m. But why?

Hiro: You can see Mt. Fuji from the Shinkansen.

Judy: Oh, really? I have never seen it.

Hiro: After 50 minutes, you will have a nice view of Mt. Fuji on your left. I'm sure you'll like it.

Judy: OK. I hope it will be sunny then.

Question 1 Who climbed Mt. Fuji with Hiro?

- (a) Judy did. (b) Judy's friend did. (c) Hiro's parents did. (d) Hiro's friend did.

Question 2 How long did Hiro walk to climb Mt. Fuji?

- (a) For half an hour. (b) For 7 hours. (c) For 9 hours. (d) For half a day.

Question 3 Did Hiro see the beautiful sunrise from Mt. Fuji?

- (a) Yes, he did. (b) No, he didn't. (c) Yes, he was. (d) No, he wasn't.

Question 4 What is Judy's plan for next weekend?

- (a) She will climb Mt. Fuji. (b) She will go to Tokyo.
(c) She will meet Hiro. (d) She will take the plane.

Question 5 When will Judy see a view of Mt. Fuji from the Shinkansen?

- (a) At 9:10 a.m. (b) At 9:25 a.m. (c) At 9:50 a.m. (d) At 10:00 a.m.

配点 15点 (各 3 点)

正答 Question 1 a (×) b (×) c (○) d (×) Question 2 a (×) b (○) c (×) d (×)
Question 3 a (○) b (×) c (×) d (×) Question 4 a (×) b (○) c (×) d (×)
Question 5 a (×) b (×) c (×) d (○)

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確かめる問題である。問題を、「会話文→質問→会話文→質問→解答選択肢」の順で提示した。

本年度の内容は、Hiro が富士山に登ったことについての会話である。問題文の語数は 188 語であり、昨年度の 158 語よりやや長くなっている。質問は、Yes または No で答える疑問文を 1 問 (Question 3) と疑問詞を使った疑問文を 4 問 (Questions 1, 2, 4, 5) とした。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○または×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は 72.5%であった。

<抽出答案における【8】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,177	普 通 科 2,786	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
Question 1	72.5	76.5	77.6	70.3	66.3	62.2	69.4
Question 2		85.8	86.3	85.1	80.0	82.4	77.8
Question 3		78.4	79.6	67.6	68.8	70.3	88.2
Question 4		87.2	87.7	81.8	80.0	87.8	94.1
Question 5		34.8	36.6	18.2	20.0	17.6	52.9

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)	無答
Question 1	15	4	2	正答	9	0
Question 2	8	4	正答	2	2	0
Question 3	15	正答	5	9	1	0
Question 4	6	4	正答	0	2	0
Question 5	67	44	10	13	正答	0

<考察>

Question 1 は、「Hiro と富士山に登ったのは誰か」を問うものである。調査校全体の正答率は 76.5%とよくできていた。Hiro の最初の会話 I climbed Mt. Fuji with my parents last weekend. か

らの確に状況を捉えているようである。

Question 2 は、「Hiro が富士山に登るのにどれくらいかかったか」を問うものである。調査校全体の正答率は85.8%と本問中2番目に高かった。Hiro の We walked for about 7 hours. という発言から正答を導きやすかったようである。

Question 3 は、「Hiro が富士山から日の出を見ることができたか」を問うものである。調査校全体の正答率は78.4%とよくできていた。Ken が日の出を見ることができたという事実はよく理解されているようである。

Question 4 は、「Judy が週末何をするつもりなのか」を問うものである。調査校全体の正答率は87.2%と本問中最も高かった。これは Hiro が Judy に Hey, do you have any plan for next weekend? と問いかけているため、容易に正答を判断できたようである。

Question 5 は、「Judy が新幹線に乗ると、いつ富士山が見えるか」を問うものである。調査校全体の正答率は34.8%と本問中最も低かった。これは、出発時間である9時10分とその50分後という二つの情報を関連付ける必要があったためであると考えられる。誤答 67 例のうち 44 例は (a) at 9:10 であり、Hiro の発言にある After 50 minutes, you will have a nice view of Mt. Fuji on your left. を正確に聞き取ることができなかったようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

Question 5 のように、聞き取った情報を関連付けたり推理したりすることができない。

<具体的な指導例>

授業で聞き取りをさせる際、本文の情報を自分の知識と関連付け、判断や計算、推理をさせるような設問を作り、ペアで答えさせる。

【ワークシート例】

[A]	[B]
<p>1. When did Hiro climb Mt. Fuji?</p> <p>1) Last Monday. 2) Last Wednesday. 3) Last Sunday.</p> <p>2. If Hiro began to climb up Mt. Fuji at 6:00 a.m., when would he finish walking?</p> <p>1) At noon. 2) At 1:00 p.m. 3) At 7:00 p.m.</p>	<p>3. Where were the clouds when he was at the highest point of Mt. Fuji?</p> <p>1) They were under Hiro. 2) They were as high as Hiro. 3) They were over Hiro.</p> <p>4. If Hiro leaves Nagoya station at 10:00 a.m., when will he see a nice view of Mt. Fuji?</p> <p>1) At 10:50 a.m. 2) At noon. 3) At 5:00 p.m.</p>